

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600436		
法人名	ベタープレイス株式会社		
事業所名	グループホームめいの家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	2022年1月16日	評価結果市町村受理日	2022年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この2年間職員はほぼ外出・外食を制限してきたし、旅行も行事も中止してきた。何をすれば楽しいだろうと考え続け、職員のイライラも絶望も増える一方だった。でも諦めず強い気持ちを持ち続けるために話し合いを重ねたし、安全に過ごすために闘ってきた。が、昨年8月家族からの感染で職員がコロナ陽性になった。職員は全員、本人にエールを送り続けご家族からも優しいお言葉をたくさんいただいた。ここで私達の心は大きく動いたように思う。諦めたのではない。できることはまず、慌てず強い心で”いつもどおり”いること。日常の中にそして十分な安全の中での私達は、私達のできることを楽しもうと決めた。コロナの陽性で心が動くのは違うのかもしれないが、このまま死んでたまるか！みたいな気持ちだった。そこから駐車場までピザを焼き、やきいも・BBQ、そして踊ったり、仮装して世界の食のオリンピックを楽しんだりした。皆久しぶりの行事に興奮した。カタチは変わっても私達は力を込めて、楽しい毎日を創る人でいようと心を込めたいと誓った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、管理者として運営に関わってきた代表が、利用者・家族・職員への熱い思いから新たな理想を掲げ、事業継承したグループホームです。「一緒に行きたい人と行きたいところへ、行きたいと思った時に行く。したい事はしたい時に。今日の『今』が一番。」という代表の揺るぎない考えは職員に浸透し、利用者とワクワクする毎日を管理者以下職員一丸となって作っています。代表はこの1年を振り返り、「コロナ禍で我慢もしたけど、発見(工夫)の方が多かった。いくらでも楽しくなることを職員が考えてくれた」と、職員の頑張りにも敬意を表しています。家族や地域住民の協力の下、実施してきた様々なイベントはコロナ禍で中止の状態ですが、クリスマスには医療従事者へのエールと感謝をこめて玄関前の駐車場にブルーライトのイルミネーションを輝かせ、日が落ちる時間には点灯を待ちわびる子どもたちのカウントダウンの音が鳴り響きました。今年、めいの家に仲間入りした愛犬「コテツ」は利用者の癒しとなり、散歩時には犬友を介して地域住民との絆を深めています。利用者中心の会話や笑い声に「Be Smile・Be Happy(笑顔で幸せに)」の理念の浸透と確かな実践がうかがえるグループホームです。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791600436-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3-9-27 PLP会館3階		
訪問調査日	2022年2月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Be smile Be happy(笑顔で幸せに！)を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。	会社の名前「ペタープレイス」には、「すべての人たちのために、いい場所に」の思いが込められています。代表の揺るぎない姿勢と考えは、現場に浸透し、理念を「Be Smile・Be Happy(笑顔で幸せに！)」と掲げ代表・管理者以下職員一丸となり実践しています。コロナ禍で何かと制限の多い毎日ですが、代表はこの一年を振り返り、「コロナ禍で我慢もしたけど、発見(工夫)の方が多かった。いくらでも楽しくなることを職員が考えてくれた」と、職員の頑張りに労いと敬意を表しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響でまだまだ地域の方と一緒に何かすることは出来ませんが、めいの家の利用者・職員だけで、小さく行事をする際に出しているお手紙の返事を頂き、「コロナでも楽しいことをしようとする気持ち。気にせず楽しんでください。」と言ってもらったり、使わなくなったバスタオルなど「捨て布やぞうきんにして。洗濯はしたけど洗ってねー」と持ってきてくれる方や、日曜日で1階が暗く電気がついていないと、「何かありました？」	これまで、家族や地域住民の協力の下、夏祭り、文化祭、クリスマス会、餅つき等、年間を通してさまざまなイベントを企画し、地域住民や子ども達に喜ばれてきました。コロナ禍でイベントは中止の状況ですが、クリスマスには医療従事者へのエールと感謝を込めてブルーライトのイルミネーションを輝かせ、点灯の時刻になると、近所の子どもたちが駐車場を走り回る光景を見ることができました。地域にとってめいの家は、今やなくてはならない存在と	地域住民や子ども達が、めいの家のイベント再開を楽しみに待っていることでしょう。コロナが収束し、子どもたちの笑い声が聞こえる日が早く来ることを、一緒に願います。

			皆さんコロナ大丈夫ですか？」と来てくれる方など、自分のことだけでなく、めいの家のことを考えてくれる地域の皆さんの優しさを知ることが出来ました。	なり、イベントはできなくても地域住民がぬいぐるみや布雑巾、食べ物の差し入れなどで支えています。また、今年からホームの愛犬となった「コテツ」を連れての散歩を通じては、犬友との交流の輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	今年もクリスマスイルミネーションを約1ヶ月点灯しました。点灯に時間を合わせて散歩に来てくれた親子や、毎日見に来てくれるおばあちゃんなど、たくさんの方が来てくれました。いつかまた、子供たち・利用者・家族みんなでカウントダウンしながら点灯式をしたいなと思いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの為、中止しています。	運営推進会議は2カ月に1回、家族会役員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、グループホーム主治医、訪問看護師、ホーム職員等がメンバーとなり話し合ってきました。コロナ禍で会議は中止の状態ですが、中止の知らせを送る際には、ホームの状況や利用者の暮らしがわかる写真入りの「メイズタイムス」を参加者全員に送っています。運営推進会議参加者の身内の方が入居され、ホームの取り組みを理解し選ばれたことに感謝しています。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>グループホーム部会に(リモートの時もあります)参加しています。</p>	<p>市担当者とは都度連絡をとれる関係を築いています。市内のグループホーム連絡会でも様々な取り組みを実施していましたが、コロナ禍で中止の状況です。現在、連絡会はリモート(LINE)で情報交換を行っています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修で長い時間はとっていませんが、全体会議の後に少し研修を行っています。</p>	<p>「ひやりハット会議」を3カ月に1回開き、事故防止や身体拘束廃止等について話し合っています。全体会議の後には研修も実施しています。事故を減らすために、ひやりハットの記入に積極的に取り組んでいます。</p> <p>3階ユニットでは自宅にいる家族のことを思い「夕暮れ症候群」の強い利用者対応のために、エレベーター前に木の柵を取り付けました。身体拘束をしないケアに取り組む代表にとって『苦渋の決断』でしたが「柵に小物や人形を飾ればオブジェみたい」との声が出たり、簡単に開けてしまう利用者を誉めたりするなど結果的に楽しんでいきます。代表は「どんな嫌なことも辛いことも悲しいことも、いつだって楽しい嬉しい幸せなことに転換できることを教えてくれた」と話します。また、代表は、コロナ感染予防のため、不要不急の外出・外食を控えて生活する職員のストレスを考え、ステイホームを楽しめるように美味しい米</p>	

				を職員に贈りました。職員は、代表の心遣いに、自粛疲れも吹き飛び、元気になると喜んでいきます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修には参加できなかったのですが、職員でグループワークを行い、意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員に制度を理解してもらえるよう話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族さんともなかなか会う機会がなく、面会も予約となりました。面会時に職員も付き添い、日常の様子を伝えたり、日々どう過ごしているか、なかなか会えない分不安も多いと思うので、できるだけ伝える様にしています。</p> <p>面会以外にも、電話で日々の様子を伝えていきます。</p>	<p>現在、コロナ禍で家族が参加するすべての活動や行事が中止の状況です。面会の方法は、玄関でのシールド越し、せめて顔が見られるようにベランダと外、駐車場で等、主治医と相談しながらコロナの状況を見ながら工夫しています。面会ができない家族への気持ちに配慮して、利用者の暮らしがわかる写真入りの「メイズタイムス」や、日常の暮らしの動画を送っています。家族会もホームの応援団として大きな力を発揮し、不要不急の外出・外食を控えてコロナ感染を抑止し続けている職員に感謝の声が寄せられています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。</p>	<p>職員会議やグループホーム会議、行事やそれぞれの持ち場の会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。年末には、他職員から「最もすぐれた能力を持った人」「尊敬している人」「一緒に働きたいと考える人」等の評価を記入してもらい、自分自身を再確認する機会ともなっています。</p> <p>昨年、インドネシアの技能実習生2人を受け入れ、職員全員でサポートしています。今年2月には職員が自主的に雪を見たことがない二人に雪を見せようとスキーに連れて行きました。実習生の彼らは、「めいの家のみんなは家族みたいだ」と感謝</p>	

				<p>しています。</p> <p>運動会・文化祭・クリスマス会等多くのイベントは、利用者・職員一体となって楽しみ、「ホームの自慢は『介護の仕事って楽しいよ』とみんなに言えること」と語る職員もいます。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めていきたいです。</p> <p>今年はアンケートの方法を少し変え、全員のいい所・悪い所ではなく、「もっとも優れている人」や「一番一緒に働きたい人」などに変えました。それをもとに個別に話し合いました。</p>			
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>できるだけ集まることをさげ、内部研修を全体会議のあとに短時間で行いました。</p> <p>今年はインドネシアからの留学生 2 人を受け入れ、教えながら、言葉だけでなくジェスチャーを加えながらなど、教えながらも教えられることが多かったと思います。</p>			

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流会はすべてLineで行われています。コロナ感染のことが多いです。あとは、行事をどうしているか、人手不足をどうしているか等話し合っています。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、入所から1ヶ月を目途に、本人・家族・職員と担当者会議を行い、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の思い・考え方・希望・問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。電話やメールで密に連絡をとり、何でも言い合える関係作りを目指しています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等スタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。</p>		

18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。洗濯物量や洗い物、食事準備や掃除、得意なこと等、役割を持ち取り組んで頂いています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>今年も一緒に行事を楽しむことができなかったのも、メイズタイム等で行事の写真を送っています。身体状態、生活全般の不安・質問等については、電話やメール、面会時に聞き取りを頻回に行うようにしています。信頼関係を築いていく努力をしています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>会うことができない事が多く、利用者さんそれぞれにお手紙を書いてもらい家族さんに送ったりしています。</p>	<p>利用者一人ひとりの馴染みの人や場所の情報は、入居後ホームでの生活に慣れてから、本人や家族に聞き取り、ライフストーリー用紙に記入し、職員間で共有しています。馴染みの人たちとの交流はコロナ禍で十分に実施できない状況です。携帯電話で家族と話すことを楽しみにしている利用者もいます。離職者が少なく、利用者職員との馴染みの関係ができています。質の高い個別支援に繋がっています。</p>	

21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に見守っています。又、コミュニケーションがいきわないよう援助することを心がけています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>今年は会う機会がありませんでしたが、メールや電話、ホームページ・インスタグラムをみて下さったり、クリスマスカード・みかんを送って下さったりと、変わらない関係が続いています。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートにある項目を、担当職員がじっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。</p>	<p>利用者調査票、ライフヒストリー、ホームでの生活が一式になった利用者情報から、一人ひとりの思いや希望を共有できるようになっています。「ホームでの生活」では、希望や好きな活動等はもちろん、嫌な話題等も把握し、利用者の尊厳に配慮しています。</p> <p>利用者一人ひとりの思いを大切に支援した事例として、司馬遼太郎ファンの利用者は「燃えよ剣」の映画を観に行きました。男性職員が勤務の時は、可愛い服に着替えて出迎える利用者もいるなど、ほほえましい光景を見ることができます。</p>	

24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。また、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本筋は「夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。</p>	<p>「本人の夢を叶える」を基本視点としてチームで話し合い介護計画を作成しています。日常的に支援していることと合致し、専門用語は使わず簡潔で、利用者・家族に分かりやすい計画書です。「明日死んでもいい。ぴんぴんコロリがええ」と言う利用者の生の声から、介護計画のニーズ(課題)が「ぴんぴんコロリをめざす」となり、短期・長期目標を「今の生活を楽しむ」「最期の時まで元気である」とし、具体的な支援の仕方を明記しています。</p> <p>計画作成担当者は、「気休めを言わない」ことを心がけて計画を作成し、課題解決のため努力しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画</p>	<p>個別記録はもちろん、連絡ノート・申し送りノートを活用しています。また、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。</p>		

		の見直しに活かしている			
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>今年も我慢の一年でした。少し慣れた所もあり、「行けないならここでやろう」と、お祭りに行けないからここでお祭りをしたりと、新しい発想のある年でもありました。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>今年も外出できませんでした。出かけられない分、室内で楽しむ・散歩に行くことを大切にしました。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>各階月に2回、往診ドクターの診察があります。歯科・鍼灸の訪問もあります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。家族と職員が同行し、安心して受診できるよう配慮しています。また、セカンドオピニオンも行い、より適切な医療を受けられるよう支援しています。</p>	<p>協力病院による内科と歯科の往診と訪問介護を定期的実施し、夜間緊急時も万全の体制で臨んでいます。かかりつけ医は利用者側で選択でき、訪問医以外を選んだ際も、診療科や状況に応じて職員が受診に同行しています。鍼灸の訪問施術も可能です。訪問医と職員や利用者はフランクに何でも話せる関係です。コロナ禍で中断していますが、ホームでは毎年、医療関係者を含む関係機関の情報交換を目的として忘年会を実施し、横の連携を深めています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、Dr. より指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr. ・N S. ・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員でそれぞれの看取り方を考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時可能で、話し合いの際にも、意向の確認をし、ケアに反映しています。</p>	<p>看取りにも対応、重度化や終末期の方針については入所の際に説明し、本人や家族の意向を確認した上で同意書を交わしています。看取りに際しては医療機関を交えてチームで対応し、意向はいつでも何度でも変更が可能です。ホームではベテラン職員を中心に様々な看取りを経験する中、若い職員が不安なく看取りケアができる体制を整えています。</p> <p>代表は「人生の最期に寄り添えることをありがたく感謝します」と話します。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>コロナウイルス感染症についての話し合いが一番多く、発熱の場合、体調不良の場合、まず何をするか、誰に連絡するか等初期対応を話し合い続けました。</p> <p>職員が発熱した時の対応も同様に話し合い続けています。</p>		

35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年は、4月・10月に消防訓練を実施しました。消化・避難・通報の訓練に加え、地震発生時にはどんな事が起き、どう対応するかも訓練しています。</p>	<p>火災、地震、水害等の災害マニュアルを備えています。コロナ禍2年目の今年度は消防署の助言を得て、利用者を交えた避難訓練を2回実施しました。備蓄の水は自治会から預かった地域住民用のペットボトルと合わせて、職員寮として借りている隣のマンションの一室に一括保管しています。その他の備蓄品は非常持ち出し袋にまとめ、各ユニットの事務所に保管するほか、1階にある「ミニコンビニ」の食品や菓子も災害用として備えています。消防署の助言を受けて備蓄品を屋外に保管すべく屋外倉庫の設置を計画中です。</p>	
----	----	---	--	---	--

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。常に敬語ではありませんが、その人の一番落ち着く丁寧な言葉で話します。</p>	<p>個人情報の利用目的やプライバシー保護については、入所時に利用者や家族に説明して同意を得ると共に、ホームページやブログなど広報活動の中でも配慮しています。 利用者の呼称については苗字にこだわらず、利用者や家族の希望や要望を尋ねた上で柔軟に対応しています。十分な信頼関係が築けた職員のみ「〇〇ちゃん」と呼ぶことを許可する利用者もあり、それを目標に利用者とのよりよい関係づくりに努める職員も少なくありません。</p>	
----	----	---	---	--	--

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている</p>	<p>忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか、以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。付き合いが長くなると「この人はこうだろう」と分かった気になってしまいます。出来ないと思っていたことができたり、まだまだ知らない事が沢山あります。会話の中から、やりたいこと、好きなものなどを引き出し、一緒にできる様にしています。日々の生活の中で洗濯物をたたんだり、家事も一緒にいきます。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝食は、起きて来られた方からで、特に時間は決めていません。昼食は 12 時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴はDr.からの指示がない方は入りたい時間に、日にちも特には決めていません。ペースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わり、ゆっくりと過ごしてもらっています。</p> <p>めいの家には定められた必要なマニュアル以外にマニュアルはなく、業務表や職員の一日の流れもありません。日常を決めるのは常に利用者です。</p> <p>また、1月14日に吹田市保健所から、生後10か月ぐらいの仔犬をいただき皆で育</p>		

			<p>てています。「コテツ」と名付け、利用者も職員も全員で躰をし、生活の一部となっています。走ったり、吠えたりしない子で人見知りもせず、利用者にもなついていきます。職員の名前は覚えなくても「コテツ」は覚えています。皆で大切に役割を持ってやっていけるよう支援していきます。犬の力はすごいです！</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>2 か月に1回の訪問美容をお願いしていますが、コロナの感染者が増えた時は中止・延期をしています。 洋服等はネットや、家族さんが持って来られています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>今までできていた一緒に盛り付けたり、お米をといでもらったりができなくなりましたが、洗い物をしてもらったり、メニューを作る時に「何が食べたい？」や、誕生日のメニューをその人の好きな物にしたり、一緒に考えています。</p>	<p>「ホームの都合より利用者の食べたい時に」を優先するホームでは、時間にこだわらず、特に朝食は個々の起床時に合わせて提供しています。飲酒も可能です。朝食はユニット内で用意し、昼食と夕食は2名の専従職員が1階の厨房で作っています。食材は主に地域の八百屋が肉や野菜を買い足して届けています。利用者の希望を聞き職員が交代で立てる献立は、美味しいと好評です。昼食やおやつ時には、食卓で調理できるお好み焼きやホットケーキ等を利用者と一緒に作ることも多く、季節によってはソフトクリームメーカーやピザ窯が活躍します。</p>	

				コロナ禍で外食の機会が消える中、東京五輪の後の文化祭ではホームの総力を結集して世界10カ国の料理に挑戦、職員が民族衣装を着て盛り上げました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	水分摂取表は毎日つけています。食意が 低下した人、体調の悪い人がいた場合 は、食事量も記録しています。水分は、好 みがあるので、その人それぞれに応じた 飲み物を提供しています。その人に応じ た水分量をDr.・Ns. と相談し、対応して います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生師が 往診します。必要な方は見てもらいま す。又、方法等を教えてもらい、日々の口腔 清拭はCWが手伝っています。個々で、 歯ブラシの形状も洗い方も違うので、でき ないところはCWが手伝い清拭保持に努 めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	テープ止めのおむつ常時着用の方は一 人もいません。全員下着はパンツ着用、 尿漏れのある方はパンツの中にパット使 用、尿意のない方・定かではない方は適 時トイレへの誘導を行っています。一人 一人に合った物を探し、気持ちよく日々を 暮らすため、排泄の工夫は一丸となって やっています。	「快適さと尊厳」の視点から可能な限り布 パンツとパットを使用し、チェックリストに 基づいて声掛けや排泄支援を行っていま す。また、パットも厚みや材質、形状等一 人ひとりにあったものを全員で検討し、ベ ストなものを使用しています。入所後、オ ムツから自立での排泄に回復した事例が あります。	

44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>まず、食物繊維の多い食事、足りないところは、ごまきなこ・牛乳・バナナ・芋類・オリゴ糖・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。お茶は、ごぼう茶・もろこし茶・てん茶などで便通を促しています。適度な運動(散歩)の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決まっていません。Dr.からの指示のない方は、週に2～3度は最低入ってほしいと思って行っています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。ただ入浴するのではなく、入浴中にしか聞けない話などもあり、ずっと同じ職員ではなく、色々な職員が介助に入れる様にしています。足元がちゃんと見える様、乳白色以外の入浴剤を揃えてあります。</p>	<p>入浴も「利用者ファースト」です。時間を設定せず好きな時間に入浴でき、利用者は昼間に週2～3回入浴しています。入浴を楽しむ工夫として2階の浴室には富士山のパネルを、3階の浴室には水族館のように魚のシールを貼っています。一人ひとりの好みの石鹸やシャンプーを用意し、入浴を好まない利用者に対してはアヒルの人形を浮かべたり、「お風呂上りにビールを飲みましょう」と誘ったりして楽しい入浴につなげています。入浴剤には足元が見えるように、透明のタイプを使う等、安全にも配慮しています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>意思決定できない方においては、午前・午後と休息時間をもうけています。夜は2時間を上限とし、その方の体調や状況に合わせた頻度で巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合</p>		

			わせています。ベッドカバーなど本人の好きな色・好きな柄にして、安眠できる様工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がどんなに怖いことをホームDr.から話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別日誌・連絡ノートに書き、全職員がサインするように徹底しています。全職員参加で誤薬マニュアルを作成し、誤薬防止に取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や洗濯物たたみ、洗濯物を干したり、リビングだけでなく居室のお掃除、掃除機をかけてくれたり、一人一人得意なことが違います。無理にお願いはせず、一緒に行っています。 季節に合ったデザート作りや、夏にはかき氷・新しくソフトクリームメーカーが仲間入りしたので、自分の好きな味を選び、自分でソフトクリームを作ったりしています。		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>今年も外出が全くできませんでした。お散歩や駐車場での小さな行事を行いました。</p>	<p>コロナ禍で季節の外出行事や、利用者個々のリクエストに応じた外出が中止になっても、少人数で徒歩 5 分圏内の公園やコンビニへの散歩を日課にしています。ガーデニングの盛んな街では道中、季節の花を愛でたり、コンビニでアイスクリームやコーヒーを買ったりすることも。ホームで飼っている愛犬「コテツ」を連れて散歩する時には、地域の「犬友」に出会うという楽しいサプライズもあります。正月は恒例の初詣に代って駐車場に鳥居を手作りしました。全職員が「コロナ禍でもできることがある」を合言葉に工夫しています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>全ての金銭管理は事務所でしています。出掛ける時、必要な物を購入した時は、領収書で、月一度家族に報告します。出掛けた時、利用者によってはお財布をご自分で持ってもらうこともあります。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は、家族さんから「様子はどうか」と連絡をもらった際にかわったり、訴えがあった時に利用しています。 ケアマネージャーが定期的に連絡をいれ、様子を伝えています。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>少しガタが来ていたテーブル・椅子も新しくなり、個々に合ったクッションを使い居心地の良さを追求しています。 一年中換気することも日々の中に入れ、1時間に2回必ず空気を入れかえる様に、職員だけでなく利用者也窓を開けたりと心がけています。 少しガタが来ていたテーブル・椅子も新しくなり、個々に合ったクッションを使い居心地の良さを追求しています。</p>	<p>1階がデイサービスと厨房、2階と3階がユニットの居間兼台所と各居室になっています。1階には季節を届ける雛人形を飾り、入口にお菓子やカップ麺、ドリンク類を揃えた「ミニコンビニ」を設けています。 各ユニットの食堂兼居間には、大型テレビと食卓があり、日中利用者はここで過ごしています。椅子には大小ぬいぐるみ等を活用したクッションが置かれ、利用者にとって座り心地のいい定位置になっています。廊下や普段使うことの少ない階段もちり一つなく掃除が行き届いています。 また、日中2つのユニットを行き来して愛嬌を振りまく愛犬「コテツ」の存在が、利用者にも元気届け、笑顔の原動力になっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士で話をしたい、一人になりたい時は、リビング横の事務所か、それぞれのお部屋を使っています。また、ご本人専用湯呑・茶碗・箸を使用することや、慣れた席がご自分の席だと覚えらることで、リビングにも自分の居場所があると思っただけであればよいと考えています。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ほとんどの方が、今まで自宅で使われてきたタンス・鏡台等を持って来られています。きれいに片づいているだけが良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方の今までの生活を知り、一緒に考えています。</p>	<p>居室は「その人らしさ」に溢れた空間です。表札はリフォームの際に出た天板を再利用して利用者が自筆したものです。ドア回りの縁取りも色違いのパステルカラーに塗り分けて「私の部屋」の目印にしています。なかでも圧巻は壁紙です。ホームでは入所の際に壁紙を張り替えており、利用者は家族や職員と相談して好みの色柄を選ぶことができます。大半は落ち着いた色柄ですが、中には金色や雲柄の壁紙の個性的な部屋もあり、利用者はそこにベッドや家具を持ち込み、自分らしく暮らしています。また、備品の用意が難しい利用者には、前住者が置いていった備品やぬいぐるみ等を活用して支援しています。ある居室には机の上に DVD や新作映画のパンフレットが所狭しと並べられ、ベッドサイドには利用者が大好きな司馬遼太郎や”いち押し職員”の写真パネルが飾られていました。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっていたりするので、バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「職員がそばにいること」「職員が声をかけること」が安全に繋がればと思います。</p>		